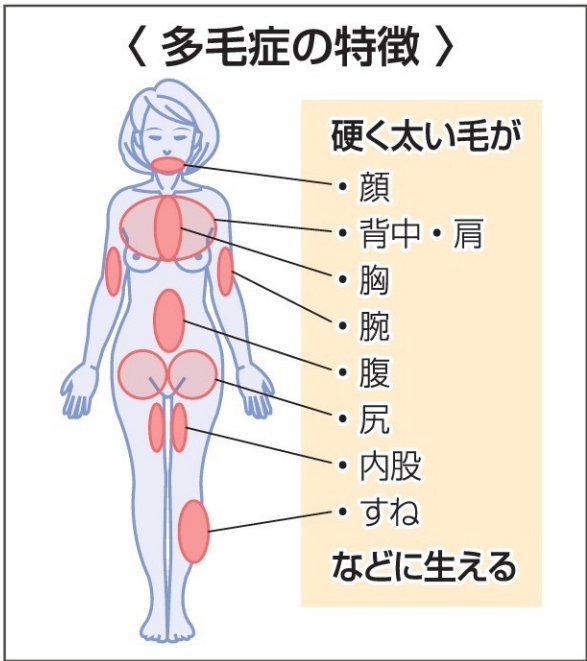




多くの女性が「私って、毛深いのかな」と悩み、無駄毛処理や脱毛をした経験があるかと思っています。体質や生活の乱れが原因の場合もありますが、卵巣や副腎の異常が隠れている可能性があります。これを「多毛症」と言い、「濃い無駄毛」とは違い、治療が必要になります。今回はこの「濃い無駄毛」と「多毛症」の違いについて考えてみましょう。

多毛症を毛の本数が増えると誤解する人が多いのですが、軟らかく細い毛(軟毛)が硬く太い毛(硬毛)に変化することです。毛の本数は変わりません。顔、腕、胸、背中、内股、すねなどには、普通の女性は産毛のように軟らかい毛しか生えません。このような部位に局所的に太い毛が生

女性の多毛症



ホルモンを調べるのが第一歩です。そして、必要があれば薬物療法や手術療法になる場合もあります。

濃い無駄毛が体質のこともあります。体質は遺伝しますので、両親や祖父母が毛深かった場合は遺伝である可能性が高くなります。

食生活や睡眠不足など生活習慣が乱れると、ストレスホルモンと呼ばれる副腎からのホルモンが分泌されます。また、喫煙は女性ホルモンを分解し、女性ホルモンと男性ホ

男性ホルモンが関与



産婦人科医

今井篤志氏

えてくると、多毛症が疑われます。多毛症には男性

ホルモン(アンドロゲン)が深く関わっています。男性が女性と比べて全身に硬毛が多く濃いことから分かります。女性には女性ホルモン(エストロゲン)しかないと思いがちですが、女性ホルモンは男性ホルモンを原料として卵巣と副腎で作られます。したがって、卵巣や副腎が正常に働かなければ、男性ホルモンがたまり、女性ホルモンが減ってきます。そのため、月経が不順になる、にきびがでやす、髪の毛がもろくなる、顔が脂っぽくなるなどの症状を伴うことがあります。多毛症の診断は、血液検査で男性

卵巣、副腎に異常の可能性

ホルモンのバランスを乱します。その結果、濃い無駄毛、月経不順、オイリーな顔といった上記の症状を引き起こすことがあります。このような場合には生活習慣の改善がポイントとなります。特に大豆製品(みそ、豆腐、納豆など)には、植物性女性ホルモンのイソフラボンが含まれており(2014年9月19日本欄参照)、食習慣を見直して女性ホルモンを整えるのも一方法です。

多毛症の程度が軽い場合には、見た目「濃い無駄毛」と区別し難いので、医療機関で男性ホルモン量を調べてもらうことで判断できます。

毛の生え変わりは、体毛で1年程度、周期が一番短い部位でも3〜4カ月と言われています。原因が分かっても、すでに生えてしまった濃い硬毛の解決には時間がかかります。焦らずに医療機関で相談しましょう。(松波総合病院腫瘍内分泌センター長、羽島郡笠松町田代)